

試験時間

90分

**注意事項**

- 1 解答用紙に受験番号と氏名の記入を忘れないこと。
- 2 問題用紙、下書用紙は解答用紙とともに机上において退出すること。持ち帰ってはいけない。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

アメリカの代表的な心理学者マズローの考えには、私はアメリカ在住時代から大きな影響を与えられました。彼の言葉に、「どうすべきか迷っている時は、ホンネに忠実であれ」というものがあります。これは私が物を書く時の指針ともなっています。専門分野の書籍は別として、一般向けの書籍で自分の意見を述べようとする時は、どうしてもあつちのことを考え、こつちのことを考え、いろいろ迷うことが出てきます。私はそういう時には、私のホンネがどうかを第一にするようにしたのです。この言葉で思い出すのが、シェークスピア(一五六四～一六一六年)が「ハムレット」の中で、老侍従長ポロニアスに語らせた次の言葉です。

「最後に、最も大切な訓……己に対して忠実なれ、さすれば夜の昼に雖くが如く、他人に対しても忠実ならん」坪内逍遙訳

これは、人生の智慧の塊のような役回りの老侍従長がもろもろの教訓を並べ立てた後、そういったものよりも何よりも大切なものが、「己に対して忠実なれ」ということだと言っている場面の言葉です。

この「己に対して忠実なれ」ということは、簡単に言えば、「良心に恥じないようにせよ」ということでしょう。

この姿勢が実は、知的生活においても大切なのです。というより、知的なものを得ていく上で欠かせない態度なのです。私は学生を教えたり、その昔は家庭教師などで子供を教えた経験から、絶対だという法則があります。それは、分かっているのに分かたふりをする子供や、あてずっぽうで答える子、ごまかしたりズルをする子は、必ずそこで進歩が止まるということです。

特に私の場合は語学が専門なので、それがよく分かるのです。英語は単語の意味がある程度分かっていたら、じつくりと文脈を追わなくても、あてずっぽうで「こんな意味だろう」ということができます。しかしそのような取り組み方は、たとえどんなにやさしい英文でも意味の解釈が微妙に違っていて、正確ではないのです。やはり、文脈を人念に追う生徒だけが、ちゃんとした理解に至ることができるのです。

ですから、試験などで、問題を少し工夫すると、あてずっぽうの生徒は間違えてしまい、きちんとしている生徒だけが答えが合っているということになるのです。この取り組み方の差は、一、二年すると、歴然たる差となって現われてきます。だから分からないのに分かたふりをしたり、知識吸収に対してズルをしてはいけないと彼らに言い聞かせるわけです。

ところで、英語に「知的正直(インテレクチュアル・オネステイ)」という言葉があります。簡単に言えば、分からないのに分かたふりをするな、ということです。

もちろん、本当に分かたつたつもりでいたのに、間違っていたということもあります。それはあてずっぽうの間違いとは違いますから、そういう間違いなら、間違いに気づくたびに確実に進歩します。

しかし端から見ていたのでは、あてずっぽうで間違えたのか、本当にそうだと確信しながら間違えたのかは区別がつかません。その区別がつかないのは、自分だけです。だからこそ、「己に対して忠実なれ」というシェークスピアの忠告が生きてくるのです。

私も、先述したように、いくつもの一般向けの書籍をそのような姿勢で出していますが、内容に関して博学の方から間違いのご指摘があった場合は、いま一度自分で考え直してから、それでもやはり指摘されたように間違いであると判断したならば、いつでも修正する正直さは持っているつもりです。

この知的正直という姿勢は、知に対する姿勢として、絶対に守らなければならないことなのです。

(渡部昇一著「知的人生のための考え方」PHP新書)

問一 この文章に適切なタイトルを二十字以内でつけなさい。

問二 本文から読み取れる著者のメッセージはいかなるものか。二百字以内で要約しなさい。

問三 学問に対する態度・心構えとして、あなたが重要と考えることを、なぜそう思うのか具体例を示しながら八百字以内で述べなさい。